日本原子力学会 核燃料部会
第 36 回全体会議 議事録

日時 :平成 23 年9月 21 日(水) 12:00～12:30
場所 :北九州国際会議場
出席者 :約20名

[1]庶務幹事よりの報告

・若松庶務幹事より、資料を用いて、活動状況の報告、予算の説明、運営委員の紹介および今後の活動計画の説明がなされた。これらに対して特に質問、意見はなかった。

1－1. 活動報告

1-1-1. 総会: 平成 23 年9月 21 日(水) 於、北九州国際会議場

1-1-2. 運営委員会 :

例年であれば運営小委員会を上期に 3 回開催するが、今年度は東日本大震災の影響を受け、2 回の開催となっている。

・平成 23 年度 第 1 回 平成 23 年 6 月 21 日(火)
・平成 23 年度 第 2 回 平成 23 年 9 月 20 日(火)

1-1-3. 核燃料・夏期セミナー: 平成 23 年 7 月に第 26 回夏期セミナーを開催する予定であったが、東日本大震災の影響により中止となった。

1-1-4.「軽水炉・高速炉におけるトリウム燃料の利用」WG: (主査:大阪大学 山中伸介教授)

・活動期間:平成 22 年 7 月～平成 22 年 12 月
・活動報告書を平成 23 年 8 月 31 日に核燃料部会ホームページに公開。

1-1-5. 燃料高度化ロードマップ実行WG

・平成 20 年度: 「燃料高度化技術戦略マップ 2008—2009」をとりまとめ
・平成 22 年度: 「燃料高度化技術戦略マップ 2008—2009」のローリングに着手
・平成 23 年度: ローリング継続実施

1-1-6. 「溶融事故における核燃料関連の課題検討」WGの設立: (主査:大阪大学 山中伸介教授)

・[設立趣旨] 核燃料の専門家の視点から溶融事故における核燃料関連の課題について検討を進める。
・平成 23 年 8 月 26 日 準備会合

1-1-7.「WRFPM2014」の準備

・「WRFPM2014」を 3 年後に日本で開催するため、その準備を開始。

1－2. 核燃料部会 平成 22 年度収支報告及び平成 23 年度予算

・平成22年度の一般予算収支は、収入が 269,000 円、支出が 183, 736 円で収支差額が 85,264 円の残となった。また、燃料高度化 RM 関係については、収入が 700,000 円、支出が 376,960 円で収支差額が 323,040 円の残となった。その結果、平成22年度末での繰越金は 1,100,815 円となった。

・平成23年度の一般予算は、収入が 299,000 円、支出が 297,000 円であり、また、燃料高度化 RM 関係については、収入は 0 円、支出が 360,000 円で計画されている。これにより、平成23年度末の繰越金は 668,533 円になると予想される。

1－3. 運営委員

(1)第 35 回総会（平成 22 年 9 月 5 日）以降の運営委員交代

（名古屋大学）　松井 恒雄 委員　→　長崎 正雅 委員
（四国電力）　田内 秀幸 委員　→　武田 高明 委員
（原子燃料工業）大平 幸一 委員　→　松浦 敬三 委員

(2)新規運営委員

（日本原子力研究開発機構）　浅賀 健男 委員
（福井大学）　宇埜 正美 委員

(3)平成 23 年度業務担当

担当		H23 年度担当者
広報 部会報		[阪大]山中委員 [四国電力] 武田委員
国際活動		安部田副部会長
国内企画(横断活動、年会時企画)		[東大]寺井委員、[NDC]小林委員
庶務幹事（財務含む）		[ZP]若松委員
夏期セミナー幹事		[北大]佐藤委員、[日本原燃] 大江委員
部会代表	部会等運営委員	安部田副部会長
	評議員	岩田部会長、安部田副部会長

【参考】部会員数 464 名（H23 年 9 月 13 日現在）

1－4. 今後の活動計画

(1) 部会報　:第 47-1号（平成 23 年 10 月発行予定）、
第 47-2 号（平成 24 年 2～3 月頃発行予定）
(2) 講演会　:未定
(3) 国際会議　:第 1 回 Asia Nuclear Fuel Conference (ANFC)（平成 24 年 3 月、於大阪）
(4) 全体会議　:平成 24 年春の年会時 （平成 24 年 3 月 19 日～21 日、於;福井大学）
(5) 運営小委員会　:平成 23 年度第 3 回運営小委員会（平成 23 年 12 月頃予定）
平成 23 年度第 4 回運営小委員会（平成 24 年春の年会時）

[2]部会長挨拶および意見交換

2－1. 部会長挨拶

・岩田部会長より、次の通り閉会の挨拶があった。

(1)3 月 11 日を境に学術分野としての原子力のサステナビリティをどのように維持していくか大事な問題となっている。原子力工学、核燃料工学のサステナビリティを維持すべきと考えるので、皆さんと一緒に技術、科学の両面で社会の中で生き続けられるような強い学術的母体をどのようにして作り上げるか考えていきたい。

⑵シビアコアアクシデントに対する積極的な取り組みが必要であり、部会としても事故調査委などの結果がでる前に、考えていることを整理して将来展望を描けるような作業をしたい。部会の中での活動に加え、海外も含め外部との連携をとりながらこれらの作業を行なっていきたい。

⑶学会の各部会の活動は活発に行なわれているものの、部会間のスキマの部分については明確になっていない面もあり、何か抜けているように思われる。核燃料分野として何が抜けているのか皆さんとよく議論して、抜けている部分を補っていきたいと考える。

⑷スピード感をもって、これらの課題に取り組んでいきたい。

２－２. 意見交換

・部会長挨拶後に出席者との意見交換を行ない、出席者より「学会の中の部会が多くなりすぎて、横の連携がとれなくなっているのではないか。学会全体として部会の再編を考えるべきではないのか。」との意見が出され、部会長より「学会理事会より全部会に対し、部会の在り方を見直して、10 月末までにその検討結果を報告するよう通達がでている。核燃料部会としてもこれから議論して報告することにしている。」と返答された。

以上